

3 研究のまとめ

(1) 研究の成果

- 新学習指導要領で示された単元の学習過程を授業の中で具体化することができました。特に、振り返りの時間を確保し、学んだことを生徒間で共有させることが、深い学びのために必要であることが分かりました。
- チェックリストの作成を通して、授業づくりのポイントを授業者が意識することにより、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業構成に近づくことができ、授業の質的改善につながったと考えます。
- 佐賀県教育センター『平成 27・28 年度「プロジェクト研究」中学校国語科』で取り組んできた、3 フレーズで示す学習課題や、今回、主体的な学びを促すために取り組んだ、言語活動のモデル文を授業者が作成し生徒に示すことは、単元の中で見通しを持って取り組ませることにつながりました。特に、授業者がモデル文を書くことは、生徒の思考をたどり、学習過程を明らかにするために有効であったと考えます。

(2) 研究の課題

- 「生徒の姿チェックシート」、「授業改善の手立てシート」については、対象にした授業実践の数が不十分であるため、項目が不足していると考えられ、今後の授業実践を基に追加していく必要があると考えます。
- 次年度は、今回整理した学習過程の中で、中学校国語科で身に付けるべき資質・能力をどのように具体化していくかを、明らかにしていく必要があると考えます。

終わりに

本研究を進めるに当たり、佐賀市立金泉中学校、伊万里市立東陵中学校において授業改善を取り入れた検証授業を行いました。さらに、江北町立江北中学校において公開授業研究会を開催しました。公開授業研究会では、貴重な御意見、御感想を頂き、研究の成果と課題を明らかにすることができました。御参会いただきました先生方に感謝申し上げます。本研究の成果が生徒の学びに還元され、更なる授業改善につながれば幸いです。

最後に、本研究委員会のアドバイザーとして御指導、御助言を頂きました佐賀大学達富洋二教授、また、検証授業及び公開授業研究会会場校の皆様に深く感謝申し上げます。